

独立行政法人奄美群島振興開発基金 事業年度評価の全体評価シート

中期計画の項目	評定	理由・指摘事項等
第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A ⁺ ● A ● B ● C ● D	一般管理費の削減は年度計画を大幅に超過する顕著な実績をあげており、一部に積み残しはあるものの、年度計画を順調に達成している。
第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	A ⁺ ● A ● B ● C ● D	手続き迅速化、適切な条件設定など、年度計画をおおむね達成しているが、職員研修、アンケートの仕組み、ホームページの更新等に一層の工夫が望まれる。
第3 予算、収支計画及び資金計画	A ⁺ ● A ● B ● C ● D	リスク管理債権に関する年度計画を達成できておらず、今後、改善に向けた新たな取り組みについて至急検討が必要。また、収支・予算計画も大幅に未達であり、一層の努力が必要。
第4 短期借入金の限度額	○ ● ×	限度額を遵守している。
第5 重要な財産の譲渡等の計画	-	
第6 剰余金の使途	-	
第7 施設及び設備に関する計画	-	
第8 人事に関する計画	A ⁺ ● A ● B ● C ● D	年度計画を順調に達成している。
第9 その他業務運営に関する重要事項	A ⁺ ● A ● B ● C ● D	計画通り出資業務を廃止している。

全体評価

全体として順調に計画を達成していると評価できる。とりわけ、一般管理費の削減など顕著な実績をあげている。

しかし、リスク管理債権については、新規発生率・保証業務の求償権回収率ともに、計画を大幅に下回り、これに伴い、予算・収支計画も大幅に未達となり、大きな問題を残している。

特に、リスク管理債権の新規発生は、データベースによるスコアリング活用や審査委員会の導入により、景気低迷が続いたにしても本来は一定水準以下に抑えられるべきものである。なぜ抑止ができなかったか、これらの方法の妥当性と改善に関して抜本的に検討し、改善策を至急検討するべきである。

また、求償権回収率を向上させる新たな取り組みが必要である。

予算・収支計画は、債権管理と密接に関連するものであり、リスク管理債権が新規に発生する状況では、予算を達成することを優先することは是認されず未達はやむを得ないと考えられる。

職員の研修がある程度なされているが、審査能力向上のための研修がさらに望まれる。

また、職員のインセンティブを確保しながら効率化をはかるために、方法の検討、そのための研修・研鑽が、引き続き望まれる。

ホームページを全面改定し成果をあげているところであるが、更新・改善に一層の工夫が望まれる。